

グループホーム 太陽の郷

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		「地域のなかで、安らぎと喜びのある生活を送れるように」と謳った理念をつくりあげている。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		毎日の朝礼、終礼、毎月一回の職員会議、運営会議を行い、管理者と職員は理念を実践できるように取り組んでいる。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		理念は紙に書き出し、GH壁に貼りだしている。「地域の一員」として入居者が暮らせていけるように、管理者は「長さん会議」に毎月出席して、地域行事の情報を収集し、円滑に参加できるように地域へ訴えている。また、地域と交流を図るために、施設行事に地域の方をお誘いしている。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		施設行事に、地域向け行事を取り入れ、地域住民をお誘いしている。21年の餅付き大会の際には、地域住民に案内文書を配布し、参加していただいた。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		地域行事への積極的参加を行っている。「まつり鯉田」「どんと焼き」鯉田公民館でのサークル、「いきいきサロン」にも参加している。

グループホーム 太陽の郷

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	「高齢者安全サポート隊」の公演を施設で行い、地域の高齢者の方をお誘いできないか検討し、「長さん会議」においても意見をもとめた。引き続き同様のことを検討する方針。		「介護教室」の開催が目標。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価票を職員に配布し、話し合いを行った。何ができて、何ができていないのか、できていないことはどうしてできていないのか、継続して話し合う予定。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において頂いた助言を活かせるように取り組んでいる。地域行事への参加、公民館サークル活動への参加等。施設内レイアウトに対しての助言も頂き、参考にした。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現在は運営推進会議の参加のみである。		市町村とともに取り組むことのできることは何か、市町村担当者と話し合いたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員研修を行い、勉強している。必要な方がおられたら、施設で検討し、職員会議を開催して制度への理解を深め、出来る限りの支援を行う方針。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修を行い、勉強している。施設内ではもちろん、地域においても何か異常があれば、一市民として義務を果たすことができるように職員を教育している。		

グループホーム 太陽の郷

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約締結の際には、重要事項説明書、利用契約書、入居のしおり、パンフレットを用い、疑問や不安がないように努力している。また、何か疑問・質問があればいつでも相談できるようにご家族へ声かけを行っている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者自治会を行い、入居者のみなさまのご意見を発表できる場を設けている。また、職員一同常日頃から入居者とコミュニケーションを図り、不満や希望などあらゆるお気持ちにお応えできるように努力している。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>事故、発熱等、異常時には必ず施設より電話連絡を行っている。また、月に一度、ご家族へお手紙を送り、暮らしぶりなどの報告を行っている。金銭管理についての報告も、月に一度文書で行っている。</p>		職員異動の報告は行っていなかったため、今後行うようにする。
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>管理者が施設の「苦情相談窓口」を務めており、口頭・電話相談を受け付けている。また、ご家族とお話する際には、何かお困りのことはないか、声かけを行っている。重要事項説明書において「公的機関」「苦情処理第三者委員」の情報を提供している。施設内、法人内に「苦情解決委員会」を設けている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月に一度の「運営会議」(各部署リーダーが参加)「職員会議」(全職員が参加)を行い、職員の意見・提案を聞く機会を設けている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>勤務調整は管理者の重要な業務と定め、退院・入院・入所・退所・行事・ご家族の宿泊等に対応できるように調整している。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>運営者は離職を防ぐため、管理者が職員の相談役になれるように教育している。運営会議、職員会議で職員が話しやすいような会議構成の助言や、日常の声かけ、職員の様子観察の方法の助言を行っている。また、職員慰労会、忘年会、職員旅行を行い、職員同士の交流が深まるように努力している。</p>		

グループホーム 太陽の郷

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。</p>	<p>新規職員の募集は、性別・年齢に制限を設けずに行っている。職員のそれまでの能力の発揮に関しては、当日リーダーや行事の月担当を設定し、一人一人の職員のそれまでの経歴や得意分野を活かして施設に貢献できるように工夫している。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>職員研修を行い、教育している。また、日々の朝礼・終礼においても「人権」については指導を行っている。入浴拒否などの介助の拒否に対しては、何故拒否をされるのか、入居者の立場にたって考えるように努力している。また「排泄」や「入浴」等の介助の際にも羞恥心への配慮ができるように職員教育している。</p>		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>管理者、リーダー、経験者、未経験者が、業務を通して、それぞれに必要なとされる能力を身につけることができるよう研修を計画している。ただし、初年度は、全職員を新人研修の対象とする。</p>		
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>現在、他の事業所との交流はないが、今後は、勉強会、職員交流を実施し、現場サービスの向上に努めたい。</p>		
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>日頃から、職員の精神状態の変化を早期に発見できるよう注意しておく。また、ストレスケアの外部研修に参加し、必要な知識、対応方法を学ぶ。</p>		

グループホーム 太陽の郷

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年度末の個別面接で、勤務状況を評価し、次年度、目的を持って業務に取り組むことができるよう目標を決定する。個別の取り組みについては、施設からの援助も検討する。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	職員一同、日々入居者とコミュニケーション図り、困っていること、不安なこと、求めていることがないか聞く努力をしている。そうして得た情報をもとに、入居者の個別処遇を組むようにしている。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居相談は毎日8:00～18:00まで行われており、事前の予約も必要ない。見学も上記時間帯いつでも受け入れている。入居相談からサポートできるよう、希望するご家族にこまめに連絡を取るようになっている。相談も随時受け付けている。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者、ご家族の相談には真摯、迅速に対応している。必要時には入居者、ご家族、施設の三者面談を行い、他のサービスも検討する方針。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	新規入居者は「入居一か月の記録」を行っている。ご本人がまずは施設に馴染まれるように細心の注意を払い、ご家族からのご助言、ご協力を得て、食事や入浴も無理強いしないように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理や掃除等は可能な限り、入居者とともにやっている。日ごろの声かけで職歴や生活歴、趣味の話聞き、活動に取り入れて、入居者からの指導を受けている。地域の行事に参加したり、中庭の野菜を育てたり、季節の移ろいを感じながら、入居者と職員は日々を過ごしている。		

グループホーム 太陽の郷

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とはこまめにコミュニケーションをとるように心がけ、そのなかで活動や施設での生活作りのヒントを頂いている。何事にもご家族の意見を求め、ご指導・ご協力を頂けるようお願いしている。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族とはこまめにコミュニケーションをとるように心がけ、ご本人の今までの生活歴の情報を頂いている。またできるだけ施設に来て頂けるように声かけを行い、ご本人が一時帰宅される際、またご家族が施設に来られる際の送迎サービスも行っている。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	理髪店、病院といった場所は、行きつけ、主治医との関係を絶たないように援助している。また、よく行った店の情報等あれば、その場所へ出かける個別処遇を組む努力をしている。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士の交流が生まれるよう、席順や活動のグループ分けを行い工夫している。また、入居者同士のトラブル回避のためにも同様の工夫を行っている。孤立しがちな入居者の方には積極的に声かけをし、ともに寄り添って日々を過ごせるよう援助している。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了後も必要時はできる限りのサポートを行うことをモットーとしている。退去が決定すれば、次の入居先を探すところからサポートする方針。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員一同、常に入居者の思いや暮らしの希望、意向の把握に努めている。職員は特定の入居者の担当となる制度を設け、普段の言動からも希望や意向を探るように心がけ、外出や外食、地域交流などの援助を行っている。		

グループホーム 太陽の郷

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居申し込みをご家族よりうけた際には、家族聞き取りを行う。その後、ご本人聞き取りを行い、入居までの間ご本人・ご家族と連絡とりあい、入居当日にも、ご本人とご家族への聞き取りを行っている。入居後もご家族とのコミュニケーションに引き続き努めている。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	朝礼、終礼を毎日行い、入居者全員の一日の過ごし方の申し送り、検討を行っている。昼間に休憩の誘導が必要な方には声かけを行う。好きな活動がある方には活動していただくといった個別処遇を心掛けている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護保険更新時、また体調等の変化時は、ご本人、ご家族、CM、担当職員によりカンファレンスを行っている。また3カ月に一度程度のペースで職員ケア会議を行い、ケア改善の検討を行っている。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは常に行い、骨折等の変化があった際にはご家族とも話し合い、介護計画の見直しを図っている。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カルテ記入を重視しており、小さな変化も見逃さないように気をつけている。ケアプラン作成や、ケア会議を行う際の重要な資料にしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	地域交流、家族送迎、病院送迎といった援助を行っている。また、当法人が特別養護老人ホームを経営しているので、施設間交流を行っている。		

グループホーム 太陽の郷

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	介護相談員の訪問が月に一度行われており、相談員から寄せられた意見を参考に運営を行っている。いきいきサロンや地域の公民館で行われるサークルへの参加を通じ、入居者が地域資源を活用できるようにしている。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	よりよいケア実現のために、当法人内のケアマネジャーとの意見交換を行っている。必要時には、他のサービス利用がすみやかにおこなえるよう援助する方針。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	今現在においては地域包括支援センターとの協働はないが、必要時には行う方針。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設には協力医院があるが、ご本人、ご家族の必要、希望があれば、かかりつけ医院での医療が受けられるよう送迎含めて援助を行っている。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医院である穎田病院の医師、看護師に相談し、助言を頂いている。		専門医等認知症に詳しい医師と密接な関係を築きたい。
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設の介護付有料老人ホームに看護職員が常勤で勤務している。毎日入居者と顔を合わせるなかで情報の交流があるため、さまざまな面で助言、協力を受けている。また、協力医院である穎田病院から、医師の往診と看護師の往診を受けている。		

グループホーム 太陽の郷

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院された時にはお見舞いに伺い、また主治医・担当看護師・ソーシャルワーカーから様々な情報を得ている。退院後の受け入れに際しても、職員全体で情報を共有し、ご家族とともに話し合い、安心・安全に遂行できるよう最善を尽くしている。</p>		
49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化、終末期を迎えた際には、ご家族と話し合い、主治医と連携をとり、どのようにケアを行うか全員で話し合う方針。</p>		
50	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>重度化、終末期を迎えた際には、施設での処理・ケアの限界を主治医とよく連携をとりながら決定し、ご家族に説明させていただく方針。ご本人の希望、容態、ご家族の希望を十分に踏まえらるよう努力する。</p>		
51	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>入居の際には「入居一か月の記録」をつけ、ご本人の気持ちにより添えるよう様子観察に努めている。退所の際には、ご家族や新しい転居先の担当者と連絡をとり、ご本人の住み替えによるダメージに配慮する方針。</p>		
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>カルテは、ご本人、ご家族にお見せするため、表現には配慮するよう職員に教育している。また、他入居者の描写がある際にはプライバシー保護のためイニシャル表記としている。言葉遣い、処遇に関しては、敬意を込めた言動になるよう職員に指導を行っている。</p>		

グループホーム 太陽の郷

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	生活全般のあらゆることに対して、「自己決定権の尊重」を重視している。決して職員が無理強いせぬよう、あらゆる処遇に配慮している。長期入浴の拒否等があった場合には、根本的原因は何なのか、ご本人の気持ちはどこにあるのかを考え、ご家族の協力も得ながらご本人との話し合いを行うようにしている。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設側の一日の流れではなく、一人一人の生活の流れを優先するように努力している。入居者が希望を言い易い雰囲気作りを行い、また日常の些細な言動から希望を読み取るよう努力している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理容・美容は、ご本人の行きつけがある場合はその利用ができるように送迎を組む方針。また、マニキュアや化粧、髪のセットなども随時行っている。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の材料切りを日課としている。レクレーションで調理を行い、メニュー設定から味付けまで入居者にお願いし、食卓に並べることも行っている。		食事作りをもっと充実させたい。
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒、煙草は希望があればご家族交えて話し合い、提供する方針。煙草に関しては、施設内では禁煙ではあるが、施設玄関前の傍らで喫煙できるようにしている。おやつ、飲み物に関しては、カロリー管理とのバランスを取りながら、ご本人の望むものを提供している。ヤクルト、パンの訪問販売を週一回行っており、またおやつや軽食の買い物ツアー、買い物代行も随時行っている。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	可能な限りの自然排泄を心掛けている。訴え時はすみやかに誘導すること、また、訴えない方には、ご本人の気持ちに配慮しながら誘導を行い、気持ちの良い排泄ができるように取り組んでいる。		

グループホーム 太陽の郷

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現在入浴は、男女を曜日別に行っている。入浴希望の方がいらっしゃる際には、例えば男性風呂の日に女性が希望されれば、一番最初か最後に入らせていただく、といったことを行う。着脱、洗身・洗髪等、可能な限り、ご本人のペースに合わせている。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人一人の身体状況に配慮しながら休息の声かけを行っている。基本的にはご本人さまのご自由だが、声かけ必要な方には横になられるよう、声かけを行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	普段より入居者、ご家族とコミュニケーションをとり、ご本人がどのようなことを望まれているか、どのようなことをされてきたか、把握するよう努めている。家庭の主婦であった方には家事を、畑をされてあった方には園芸が出来る環境を提供している。		日曜大工を取り入れたい。テーブルや椅子を制作していただきたい。
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設では入居者がお金を自己管理できる。(3000円限度をお願いしている。) 買い物ツアーやパン・ヤクルトの訪問販売の際には、ご本人が所持金でお支払いすることもある。		認知症の進行したかたでも、地域のスーパーで、ご自分で計算して買い物をできるように支援したい。
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個別処遇を強化できるよう工夫している。外出や外食、散歩も希望があればできるように活動を組むようにしている。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	普段より入居者、ご家族とコミュニケーションをとり、ご本人がどのようなことを望まれているか、どのようなことをされてきたか、把握するよう努めている。地域のサークルに参加したい方や、喫茶店でコーヒーを飲みたい方がその場所に行けるように努力している。またその際に、ご家族が参加できることも、ご家族に声かけをしている。		

グループホーム 太陽の郷

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたいという訴えがあれば、事務にて対応し電話連絡をとっている。		日常的に手紙をかくことや、年賀状・暑中見舞い等の時期に応じた手紙をかくことを取り入れたい。
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族やお友達の来所を歓迎し、お茶を出しておもてなししている。また、施設行事をご家族への手紙や施設内掲示板でお知らせしたり、案内文書を配布して参加を呼び掛けている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束禁止の取り組み」に関する研修を行い、具体的禁止事項を勉強した。身体拘束は絶対に禁止という方針に基づき、ご家族より要望があった際にも施設と話し合いを行い、拘束をしないケアを提供している。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施設構造上、GH玄関は機能しておらず、施錠した状態である。だが施設の実事実上の正面玄関は、「施錠 = 身体拘束」とした施設方針のもと、日中は決して施錠をしておらず、またセンサーも取り付けしていない。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者が安心して過ごせるよう巡視を行い、日中の様子はカルテに記入している。また外出等がある際は、朝礼・終礼にて確認している。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個別処遇が基本であることをモットーとしている。入居契約時に持ち込みをお断りするのは「火器危険物」としており、それ以外は基本的に自由である。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	「事故の予防と再発防止策」についての職員研修を行っている。また事故発生時は報告書提出を義務付けており、即座に対策を考えるようにしている。「事故対策委員会」を毎月開催し、再発防止策を話し合い、また「事故危険者の個別処遇」を検討している。		

グループホーム 太陽の郷

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	「救急救命」についての研修を行っている。マニュアルを備え、緊急時に対応できるようにしている。定期的にマニュアル含めチェックを行っている。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	「自衛消防操法大会」に参加し、訓練をうけている。また、年に二回の消防訓練をうける予定。(一回目は21年10月、二回目は22年3月予定) 長さん会議や運営推進委員において災害時の協力を呼び掛けており、職員用マニュアルも作成している。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	カンファレンスやご家族来所時の話し合いにおいて、日頃からの生活についての報告を行い、ヒヤリハットや事故の報告も行っている。リスクマネジメントについては、出来るだけご本人の意思や望みを尊重した形で実現できるように努力している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	カルテ記入を行い、様子観察につとめている。バイタルチェック、体重測定を行い、また併設の介護付有料老人ホームの看護職員の協力を得ながら、異変の早期発見に努めている。異変時には、朝礼・終礼にて申し送りを行い情報を共有している。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬表を一人一人のカルテにはさみ、目的、副作用、用法、用量について理解できるようにしている。また、併設の介護付有料老人ホームの看護職員より教育を受けている。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	併設の介護付有料老人ホームの看護職員より教育を受けている。排泄記録つけ、便秘の際にはすみやかに報告し、主治医と相談している。食べ物は管理栄養士がたてたメニューを提供、運動はりハビリを行っている。		

グループホーム 太陽の郷

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアを日課としている。基本的には見守りだが、介助が必要な方には、過剰にならないように配慮して行っている。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、食事摂取量の記録を行っている。また特に水分摂取量の記録が必要な方には個別に行っている。配茶を行い、十分な水分が摂取できるようにしている。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症の研修を行っている。「感染症対策委員会」を設置し、注意喚起やマニュアル作成・配布を行っている。また、地域で行われる感染症の研修等には積極的に職員参加を呼び掛けている。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒防止のためのマニュアルを配布している。調理器具の殺菌・消毒を必ず行い、食品をよく洗う、火を通すことにも配慮している。併設の介護付有料老人ホームの厨房担当職員の協力・助言をもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	施設構造上、実質上の玄関は正面玄関である。正面玄関は施錠をしておらず、自由に出入りができるようにしている。バリアフリーであり、車いすの方の移動にも支障はない。玄関には花壇を設け、心地よい空間作りに取り組んでいる。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	車いすの方にも配慮した設計になっている。十分な広さと、採光であり、静かで寛げる空間となっている。また、飾り付けを季節に応じて行い、楽しい空間作りを心掛けている。		

グループホーム 太陽の郷

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	娯楽室にはテレビとソファを設け、気の合う方とゆったりと語らえるようにしている。また、併設の介護付有料老人ホームの空間も出入り自由であり、思い思いのお気に入りの場所を見つけることができる。施設は十分な広さがあるため、共用空間においても、1人でのんびり過ごして頂くことができる。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家具の持ち込み自由であり、ご本人、ご家族が思い思いに部屋を飾ることが出来る。ご家族は思いでの写真や、置物、花などを持ち込まれ、ご本人が心地よいお部屋になるようにしてくださっている。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝換気を行っている。また、毎日の掃除の際にも、窓を開け、空気の入替えを行うようにしている。温度調節は、ご本人の希望を尊重し行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車いすの方も安心してお過ごし頂けるように全面バリアフリーである。ドアも引き戸を採用し、使い易さにこだわった作りである。建物内の危険物は可能な限り排除し、事故防止に努めている。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人一人が安心して生活できるようにリスクマネジメントするとともに、過剰な介護がないように取り組んでいる。できることはできるままで、できなくなったことも取り戻せるようにをモットーに介護している。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	施設外縁には花壇を、中庭には畑を作っている。花壇への水やりや草取り、中庭の野菜収穫を行い、日々の生活に季節感と楽しみが生まれるようにしている。		

グループホーム 太陽の郷

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

グループホーム 太陽の郷

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

併設の介護付き有料老人ホームとの交流と、合同の行事、また、1人1人への個別処遇に力を入れている。「生活づくり」をモットーに、今までやってきた普通の生活の延長が施設で実現できるように職員一同取り組んでいる。また、地域参加にも力をいれ、公民館サークルや、地域行事へ参加している。地域住民が自由に遊びに来てくださるような施設にしたいとPR活動に勤しんでいる。ご家族との密接なつながりを目標にし、ご家族送迎やご自宅訪問も行っている。